



星美学園
小学校
第517号

世界の難民の
ために祈る月

聖書

はつきり言っておく。どんな願い事であれあなた方のうち二人が地上で心を一つにして求めるのなら、私の天の父はそれを叶えてくださる。
マタイ一八、一五〜二〇

たくましく生き抜く力

入試広報部長 飛鳥 直子

今年の八月は、リオ五輪が大きな話題となった。昼夜逆転し生活リズムに支障を来した人もいたことだろう。我が家も例外ではなく、夢中になって日本選手を応援した。どの競技会場からもあふれるばかりの応援の熱気が感じられたが、その映像には、選手の家族が力強く応援する姿も映し出されていた。

メダリストの中には、幼い頃から整った環境で競技を始めた、いわゆる「英才教育」を受けて育った選手が数多く見られた。体操の内村選手やレスリングの吉田選手、卓球の福原選手などである。親自身がかつて同じ競技を行っていた経験を活かし、自分の子供により良い環境を与えて育成してきたのである。オリンピックでメダルを取ることを目標に、長く過酷な道のりを親子で歩んできたことは賞賛に値する。

一方で、正反対の環境で育ったメダリストもいた。競泳女子二〇〇m平泳ぎの金メダリスト、金藤理恵選手（二十七歳）である。金藤選手は広島県の田舎で生まれ育ち、小学校三年生から高校三年生まで公営プールへ通い、練習を続けたそうだ。そこは夏の四ヶ月間のみ開放される屋外プールで、築五十年の古めかしい施設であった。金藤選手は寒い日も雨の日も、文句ひとつ言わずに練習に励んだという。九月には予算が尽きてプールに薬品が投入できず、水面に藻が浮かぶ視界の悪いプールで彼女は必死に泳いだそうだ。更には、コースロープも発泡スチロール製で波を抑える作用がないため、スピード

が乗らないというハンデがあった。高校二年生の時、このプールで開催された大会で「こんなぼろいプールだから記録が出んよ。」と不満を漏らした他校の選手に、自分が育った環境を侮辱されたように感じた金藤選手は憤慨したという。約一ヶ月後に、同じくらい古いプールで開催された地方大会でその選手を抑えて優勝し、溜飲を下げたそうだ。

親の立場として、子供の力を伸ばす支えになることは当然であるが、ややもするとそれが過保護になってしまふことがある。やり方によつては、子供をひ弱な「温室育ち」にしてしまふ場合もあるだろう。整った環境を与えて子供の力を伸ばすのもひとつの方法であるが、温かい心で支えながらも敢えて厳しい環境を与え、たくましさや強さを身につけさせることが時には必要であるのかもしれない。我が家の息子たちは高校生になるが、果たしてたくましさを身につけてこられたのか、自分の子育てを振り返って考えさせられる。

世の中の移り変わりは、この十数年を振り返ってみてもさまざまいものがある。子供たちが今後生きていく世の中がどのように変わっていくのか、見当もつかない。しかし、どのような世の中になろうとも、強くたくましく、よく考え、善を選び、幸せを見つげながら生き抜いていってほしい。そのためにも、自分の足で立ち、歩いていけるようにしてあげることが親の使命なのだ。金藤選手のエピソードを読んで改めて思い知らされた。

これからパラリンピックの熱い闘いが始まる。昼夜逆転生活にならないように気をつけながら、また日本勢を精一杯応援していきたい。

「チマツチ神父の生涯」

日本の地で聖ドン・ボスコの心を生きた人々



チマツチ神父は、神学校内外でも評判がよく、学生や卒業生に非常に慕われ、人としても円熟の域に達していた。若い時から宣教地に行きたいと志願し、何度も願書を提出していた。四十六歳で彼の願いは受け入れられ、日本への宣教が決まった。日本への宣教がどれほどの苦難と不幸が待っていたと、総長の呼びかけに神のみ旨を見出し、喜んで受諾した。

司祭六名、修道士三名の宣教師一行は、十二日の航海の後、一九二六年二月八日に日本に着き、宮崎の地で日本語の勉強を始めた。「ひげの生えた九名の生徒たち」であった。

すでに年齢を重ねていたチマツチ神父は、語学の勉強を不安に感じていたが、決して落胆してはいなかった。他の人と一緒に日本語の授業に参加し、大変な苦勞をしながらも、小学校の教科書を一通り勉強した。子どもに戻り、たどたどしく話すという屈辱を経験した。一年後、宣教活動を始めたので、正式な勉強は小学校五年生程度までで終わらざるをえなかった。だがその後も、宣教や長上としての仕事に追われながらも、辞書を引いたり小学校の教科書を読み返したり一生懸命努力をした。

チマツチ神父は、福音を宣教する時、言葉よりも心で語っていた。「若い神父様方は、チマツチ神父様よりも日本語が上手だけれど、僕たちはチマツチ神父様のお話のほうをもっと喜んで聞きます。」と子ども達は話していた。



NHK全国学校音楽コンクール・TBSこども音楽コンクール

聖歌隊の皆さんは、今年の夏もNHKコンクールとTBSこども音楽コンクールに出場し、左の賞を受賞されました。

西田先生のご指導のもと、夏休みの間も学校に通い、充実した練習を重ね、心を一つにしてステージに立ちました。ご家族の皆さんをはじめ、多くの方々の励ましとお祈りに支えられ、星美ならではの心に響く美しい歌声で多くの方々を感動させました。応援ありがとうございました。

NHK全国学校音楽コンクール 結果

東京大会地区予選
府中の森芸術劇場
東京大会地区本選
文京シビックホール
八月一日(月) 金賞受賞
八月十日(水) 優良賞受賞

♪課題曲

『ぼくらのエコー』(同声二部)

作詞 荒井 良二
作曲 太田 桜子
指揮 西田 真弓
ピアノ 木村 裕平

♪自由曲

『人はなぜ』(同声合唱とピアノのための)

作詞 みなづきみのり
作曲 松下 耕
指揮 西田 真弓
ピアノ 木村 裕平

TBSこども音楽コンクール 結果

江戸川区大会
江戸川区総合文化センター 七月二十七日(水) 優秀賞受賞

♪曲名

『人はなぜ』(同声合唱とピアノのための)

作詞 みなづきみのり
作曲 松下 耕
指揮 西田 真弓
ピアノ 木村 裕平

☆優秀賞を受賞しましたので、「東日本優秀演奏発表会」のテープ審査に進みました。



音楽合宿

八月二十二日(月)～八月二十五日(木)まで越後湯沢で、特別音楽クラブの合宿を行いました。

出発当日は、台風の影響が心配されましたが、新幹線には全く影響はなく、予定通りホテルに着くことができました。到着後、早速、聖歌隊と金管バンドに分かれての練習になり、充実した四日間を過ごすことができました。この合宿を通して各自の技術の成長は勿論のこと、お互いの心が通じ合う素晴らしい合宿となりました。

9月行事予定

- 1日(木) 始業式・み言葉の祭儀
発育測定・引渡し訓練
- 2日(金) 懇談会(高学年)
- 5日(月) 懇談会(中学年)
冬服・オーバーコート注文
- 6日(火) 懇談会(低学年)
- 7日(水)～8日(木)
受験希望者学校見学(要予約)
- 10日(土) 第3回学校説明会(年長児 入試体験)
父母の会定例役員会
- 12日(月)～13日(火)
星美幼稚園生 願書受付
- 13日(火) ホームステイ学習会
- 14日(水) 学級委員紹介式
- 15日(木)～16日(金)
3年生林間学校(於:富士山)
- 17日(土) 内部面接
- 19日(月) 敬老の日
- 22日(木) 秋分の日
- 23日(金) 学習発表会リハーサル
- 30日(金) 校内学習発表会

第3回学校説明会

年長児対象入試体験があります。
お知り合いの方で、来年度就学予定のお子様をお持ちの方がございましたら、ぜひお勧めください。

学習発表会(弁当持参)

校内発表会は児童のみの鑑賞です。学習発表会は、聖歌隊・金管バンド、2・4・5年生の発表となります。
発表のある保護者・一般の方は、10月1日(土)にご鑑賞ください。自主性と創造性を活かし、より良い学習発表会を観て頂こうと子ども達も頑張って練習に取り組んでいます。
短期間の準備ですので、十分に発揮し切れないこともあろうかと思いますが、どうぞ一人ひとりの演ずる発表を大切に、全学年の演技をご鑑賞ください。

8:40 入場開始
9:00 開演
11:00 公演終了

☆ 詳細は後日配布するプログラムをご覧ください。



聖歌隊
金管バンド
2年生【くまのこうちょうせんせい】
4年生【In The Stormy Night
～The friendship of goats and Wolves～】
5年生【アリババ】

【ベルマーク整理】

12日(月)⇒4B 13日(火)⇒4C 14日(水)⇒4A